

も い 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第43話
宗谷森林管理署
美濃部 ゆず

今年度より宗谷森林管理署に配属となり、稚内の地に初上陸しました。以前から「いつか行ってみたいな」と思っていた礼文島や利尻島へ、業務で訪れる機会があったり、日本最北端の宗谷岬へ足を運んだり、不思議な感覚を味わいながら日々を過ごしています。夏は涼しく過ごしやすい気候ですが、稚内の冬が今から怖いです。

今回は、宗谷森林管理署での数か月の間に経験した業務について紹介したいと思います。

【植生マット工】

植生マット工とは、治山工事で切土や盛土を行った後の斜面や崩壊した斜面に、植物を生育させるためのマットを敷設することで、斜面の保護と緑化の促進を同時に図る工法です。

今回は、利尻島の深内沢において、前年度に施工できなかった箇所へ植生マットを敷設しました。斜面に植生マットを敷設し、アンカーピンを金槌で打ち込んで固定していきます。

施工後のきれいになった斜面を見ると、大きな達成感があります。また、天気の良い日に利尻島へ訪れると、利尻富士を間近で望むことができ、その雄大な景色も業務の楽しみの一つです。



作業中の様子



完成した斜面



姫沼から見た利尻富士

【チルトローテーター】

宗谷森林管理署管内で実施されている林道工事において、チルトローテーターを活用している現場を見学する機会がありました。

チルトローテーターは油圧ショベルの先端に装着するアタッチメントで、左右45度の傾き（チルト）と360度の回転（ローテーション）が可能です。林道の路床を掘削する際や道路脇の斜面を整形する際に、ショベルカー本体を移動させることなくバケットの角度や向きを調整できるため、作業を効率良く行うことができます。

例えば、写真1のように従来の油圧ショベルで斜面に正対して掘削を行う場合、一度に下部まで動かすことが難しく、途中でショベルカー本体を移動させる必要があります。一方、写真2のよう



写真1 チルトローテーターなし



写真2
チルトローテーターあり

に、チルトローテーターを装着した場合は、斜面に正対しなくとも離れた場所からバケットの角度を変えながら作業を行うことができ、一度に斜面下部まで掘削することが可能です。

また、運転席に座ったままバケット交換ができるほか、簡易グラブ機能も備えており、作業の省力化や効率化につながる点も大きな特徴です。

【おわりに】

宗谷森林管理署ならではのさまざまな業務や現場を経験できる機会を大切にしながら、日々知識や技術の習得に努めていきたいと思っています。また、宗谷ならではの自然や環境にも親しみながら、今後も経験を積み重ねていきたいです。